

会 議 録

会 議 名	令和7年度 第1回福島市男女共同参画審議会
開催日時	令和7年5月22日(木) 午前10時00分から午前11時40分
開催場所	福島市市民センター3階 313会議室
出席委員	横田智史委員、小澤和枝委員、赤間幸子委員、高橋浩美委員 樋口和枝委員、前川直哉委員、松原喜憲委員、宗像正彦委員 元井貴子委員
欠席委員	今野秀幸委員、奈良輪和子委員、西沢桂子委員、渡邊圭司委員
議 題	議 事 (1) 令和7年度男女共同参画センター事業について (2) 男女共同参画ふくしまプランの策定について (3) その他
市出席者	副市長 : 斎藤房一 総務部長 : 三浦裕治 総務部次長 : 松崎剛 男女共同参画センター所長 : 赤間公子 " 主任 : 酒井俊宏

令和7年度 第1回福島市男女共同参画審議会 会議録

日 時：令和7年5月22日（木）午前10時～11時40分
場 所：福島市市民センター3階 313会議室
出席者：委員9名（別紙のとおり）
事務局：4名（別紙のとおり）

開会前	委嘱状机上交付
事務局	1 開会
副市長	2 あいさつ
	3 自己紹介（各委員、事務局）
	4 会長・副会長選出（審議会規則第2条）
赤間委員ほか	事務局案一任
事務局（主任）	会長に横田委員、副会長に小澤委員を提案
委員全員	意義なし
会長・副会長	5 会長・副会長あいさつ
副市長	6 諮問（男女共同参画ふくしまプランの策定について）
	7 議事
事務局	8 閉会

【議 事】

（1）令和7年度男女共同参画センター事業について

横田会長 事務局より説明願う
事務局（主任） 資料に基づき説明

【主な質疑等】

前川委員 全国的に女性活躍と言われているが日本に限らず世界的にも課題になっている。これまで男性は外で仕事、女性は家で家事育児という近代的な性別役割分担になっている。女性活躍が進みどうなったかということ、男性が外で仕事、女性は仕事と家事となっている。つまり何が問題かということ、男性がケア労働に参加していないのが一番の課題になっている。

地方から女性が都市部へ流出することが課題になっているが、地元に戻ると親戚の集まりなどで男の人はリビングでお酒を飲んでいるのに、女の方は台所仕事の構図がいまだに残っている。それは女性活躍を進めても解決しない問題で、男性に家事をしてもらう必要がある。男性向けの施策が少ないと感じたので、男性が家事をできる料理教室や講座などの意識啓発を進めてほしい。男性の家事は、福島にとっても大切だと思う。

事務局（主任）女性活躍ということで女性支援に向けた講座等を行っているところですが、男性に家事等を行ってもらわなければ、根本的な解決につながらないというご意見もございましたので、私たちができること他の部署でできることを考えながら、プラン策定の中でも検討してまいりたいと思います。

横田会長 そういう意味ではおとう飯の宣言後の動きがみえていない。

前川委員 生理用品設置の件ですが、男性向けの生理の講座も全国的に、特に学校などで取り組みが進んでいるが、大人も子どもも生理について理解していない。大学でもいろいろと変えなければと思うが、生理や更年期などについて、それぞれ互いに理解し合う必要があるので、例えば市職員を対象に任意参加で始めてみるのもひとつではないか。

小澤副会長 最近新聞報道でみたが、議員が生理用品を置いてほしいとSNSに投稿したことに対し、生理用品を持ち歩くことを教育されてこなかったのかという意見がSNSで拡散されていた。時代に逆行した考えがまだまだあるようでSNSは怖いと感じた。

横田会長 男性にできることは意識改革なのか。

前川委員 まずは知識かと思う。生理用品について避難者の話がメディアで報じられたが、避難の現場の声では生理用品は1年に12枚あればいいという男性もいたようだ。確かに生理を経験していないこともあるが、災害は多くなっているのだから、基本的なことから伝える必要はあると思う。

高橋委員 生理の貧困は問題になっていて、私の娘は、なぜ女性ばかりが生理用品の費用がかかるのか疑問だと話している。行政として生理用品を配布しましょうという考えになればいいと思う。

（2）男女共同参画ふくしまプランの策定について

横田会長 事務局より説明願う

事務局（所長） 資料に基づき説明

【主な質疑等】

前川委員 人権の観点からも勿論ですが、地方からの女性流出が大きな問題となっている。女性が一旦外に出て、戻ってきたい街になるのか、他から引っ越ししてきたい街になるのか、それが今後20～30年後の福島市の人口が何人になるのかを将来にわたって福島市が存続する今の形が保てることを目指すなら、総合計画の中で男女共同参画の重要性を強く示してほしい。

横田会長 全国で400名位のパパの集団になる東北ファザーリングジャパンの立ち上げ時の代表をしていた。その際には男性が変わらないと世の中が変わらないと言い続けてきた。男性向けに特化した講演会などは人が集まらない。一方で女性は講演会に参加し、聴いた話をパパに聞かせたいと感想を言っている。男性向けの啓発が難しいのは事実で、そこをどう届けていくか、企業・組織・団体等で参加しなければいけないという意図的な仕掛けを検討することが必要になると思う。

- 松原委員 今までの女性活躍は、女性にもっと活躍をとという感じであった。女性の負担は増えるのに何で女性はそれでいいのだろうと思っていた。先ほどの話を聞いて、なるほど男性がやっていないんだと改めて気づかされた。
- 男性が講演を聞きに行かないのは、男性からすると労働用語でいうマイナス会計になるからである。今までやらなくてよかったことをやらなければならなくなる。女性はこうしてほしいとなるので積極的に聞きに行く。今話を聞いて、まさにそのとおりだと思ったのが、半強制でもいいので研修や講座を受講していただき、そこに気付いてもらわないと始まらないと感じた。
- 高橋委員 娘は結婚するメリットがないと言っている。男性は育児でも何でもサブの役割で結局は手伝う意識になり、それがイクメンと考えてしまう。サブの役割の意識を変えていくのは大事だと思う。
- 横田会長 学校関係では女性の意識は変わってきているか。
- 元井委員 この学生は賢いなと思う子は、だいたい結婚したくないと言っている。何となく勉強したくない、何々したくないという子は、結婚したいと言う傾向がある。お付き合いする段階ではいいが、一緒に住んでしまうと色々やらなくてはならなくなるのが嫌なようで、お付き合いできる人がいればそれでいいようだ。
- 樋口委員 男性に男女共同参画の意識を持たせるためのセミナー等を開催しても参加しないと思う。企業や組織等で強制的に参加してもらい、自分たちでやらなければならないと思ってもらえればいいと思う。
- 小澤副会長 私はやはり教育だと思う。学校ではみんな同じレベルで授業を受けている。小さい時から男女平等であることの教育を続けていけば意識は変わるのではないか。
- 高橋委員 女性管理職等への登用の政策があるが、実際に女性側としては優秀でもなりたくない人が増えている。女性ばかりが頑張って、子育てして、家事もしながら仕事して、会社では役職をあげていくとか、引き受けざるを得ない状況になるのは問題だと思う。女性の管理職を増やすには、男性の根本的な考え方を改善していかなければならないと思う。
- 元井委員 高齢の世代ではどうしても男性のケアをするのは妻の役割となっていて、60代以降の女性の鬱の原因はそれにある。一方的にやらなければならないのは苦しくなる。若い人に子を産んでもらい人口を増やすことに目がいってしまうが、それにプラスして高齢女性の介護というか少し楽になれるようなものがあればよいと思う。ただ高齢の70～80代の男性の意識改善なかなか難しい。
- 小澤副会長 男性の意識が変わらないと進まないとの話があるが私はそうは思わない。女性は講演会等に興味を持って参加し、そこで聞いた話を家庭の中で少し実践してみようとなる。女性ももっと意識を持って働きかけることも大事だと思う。家庭の中で意識した人が働きかけていくことも大事だと思う。男性にだけ押しつけても、小さな日常のことで気づいたことを話していけば変わるのではないかと思う。
- 赤間委員 子どもの話になるが、人事異動で異動した職場は、朝に女性がお茶を出しする職場で、上司に自分の家庭では違うと相談したが聞き入れてもらえなかったことが

あった。このような企業がまだある。

宗像委員 家庭環境が大切だと思う。母が看護師で夜勤があったので、父が台所に立ってご飯を作っていた。男性が台所に立つのは小さいころから当たり前とっていたが、同世代に言わせるとちょっと違っていた。簡単に言うと考え方にギャップがある。今の10代から20代の世代は、こういう問題は発生しなくなるのかなと思う。問題は私たち世代にあると思っている。

横田会長 学生が社会人になったとき、社会環境が今のままだとやはり埋もれてしまう。社会環境を変えていくことは必要である。

○その他

事務局（主任）説明

- ①今年度の審議会は4回の開催を予定、第2回目は8月開催となる
- ②本日の審議会における意見票の提出について提出をお願いする